

# 野尻抱影先生を囲む会

大崎 正 次

野尻先生の満90歳のご長寿をお祝いして、先生を囲む会が、去る11月30日東急文化会館ゴールデン・ホールで開かれた。野尻先生といえば、わが天文学の世界では、だれ一人知らぬ者のない最長老であり、大先輩である。50年以上にわたって、つぎつぎと著わされた数々の名著を通して、星の世界にすいこまれた人々はどれほどの数にのぼるだろうか。あるものはその道を突き進んで専門家になり、あるものは星を生涯の友として、それを知らぬものとは別の豊かな人生のよろこびを得た人となったはずである。先生のご長寿を祝って集まった人々が、何よりもそれをあかしていると思われる。たまたま国鉄ストの最中でありながら、遠くは九州から飛来、また信濃から車で馳せ参じられた方々、近くは3代にわたる東京天文台長、東大天文学科のもと教授、東京天文台勤務のバリバリの現役、国立科学博物館の天文担当官、それに加えて、アマチュア天文家としては、もはや星と心を通じつつある年期の入ったOBの面々、それに創立以来野尻先生のご指導の下に天文知識普及の第一線に立っている五島プラネタリウムのメンバーたち、それらの方々の参会によって、まことに楽しく和やかな饗宴がくりひろげられた。参会者が心をこめて口々にのべられたことは、先生のご長寿に対する通りいっぺんの祝詞ではなく、長年にわたる専門家も及ばぬ天文学一般についてのみごとな解説、いつも若々しく情感の溢れた珠玉のような天文隨筆、さらにはかくれていた星の和名の蒐集、星にまつわる古画・彫刻を新しく見なおされたことなど、天文学の世界だけでなく、民俗学や美術史学界にまでに及ぶ

貴重な学問的な業績を、かわるがわるたたえられた。90歳をこえられた今日もお、現役の天文家としてカクシヤクと著述にはげまれておられることへの驚嘆と、羨望にも似た今後のお仕事への期待であった。先生は米寿の年に新著1巻(日本星名辞典)、昨年11月15日には満90歳をこえられながら、この日の数日後に、またそれも書き下ろしの新著を脱稿されたとのことである。日本出版史上においても特筆すべき超人である。この日某氏の問いに答えられた、先生の長寿と息の長さを秒訣ここに披露させていただくと、それはまず快通と安眠、そして多年にわたる文学修業を通しておのずから学び得た一大事ニ際シテモ、一步すり抜けてこれを客観視すること、つまり今更ニ驚ロクベカラズと自らにいきかせること、この三事だった。この夕、よせ書きの色紙に、先生がしたためられた句は、<さい果ての星の旅路もまだ尽きず>。終りにこの次に迎える99歳白寿の祝賀会を開くことを一同期待し、約束して万歳三唱、記念撮影ののち、名残りを惜しみながら散会した。なお当日の参会者は、野尻先生のほか、宮地政司・鏑木政岐・藤田良雄・廣瀬秀雄・古畑正秋・富田弘一郎・村山定男・小山ひさ子・坂上務・草下英明・小森幸正・今井正明・大崎正次・竹内泰子・青木正博・原恵・佐久間精一・木村精二・山本忍・水野良平・小田泰正・大谷豊和・小林悦子の諸氏であった。なおこの会については、五島プラネタリウムから多分のお世話とご援助をうけたことを記し、厚く御礼申し上げます。

## 書 評

### An Atlas of Light Curves of Eclipsing Binaries

Mario Fracastoro

Osservatorio Astronomico di Torino, Pino Torinese,  
Italia 1972. U.S. \$17.50 (又は Liras 10,000)

著者はイタリアのカターニヤ天文台の前台長であり、現在はトリノ大学天文学教室の主任教授である。このアトラスは、66個の代表的近接食連星について従来発表されている光度観測データの1つ1つをプロットして光度曲線を書き直したものである。実視領域の光度曲線が62個、青色領域47個、紫外15個、赤色または近赤外が2

個で、全部で126個の光度曲線からなっている。こと座β星、ぎょしゃ座ε星、ぎょしゃ座ζ星などの有名特異食連星が含まれていないのが残念だが、現象としての“食変光”の全様相を見ることができる。これら光度曲線によって、現在の光電測光による変光観測の一般的精度を見てとれるばかりでなく、アルゴール型・こと座β型・大熊座W型という古典的分類にしたがって、連星を構成する両星間の接近度と光度曲線上に現われる反射効果や楕円効果(形状歪曲の影響)の推移の関係が一目瞭然に分って面白い。また、フリッカリング、ガス流による擾乱、ガスリング上のできるhot spotなど最近問題になっている特異現象による光度曲線のゆがみも見られる。このアトラスにより著者 Fracastoro は、“光度曲線のあるものは自然がセットした魅惑的な問題(近接食連